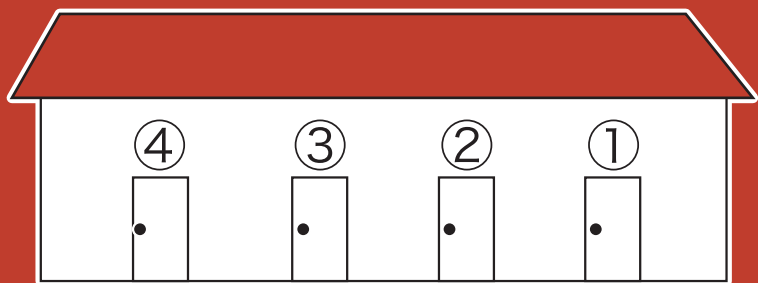


清水沢コミュニティゲート

SHIMIZUSAWA Community GATE

清水沢コミュニティゲートは旧炭鉱住宅を活用した、「地域内外の人々のよりどころ」です。地域内外の人々が出会うきっかけの場、地域への“入口”としてのゲートであり、静かな地域を守る“門番”でもあります。地域に関することはお気軽におたずねください！



①「よりどころ」ちょっとした休憩・コワーキングスペース／少人数のイベント／ミニオフィス／レクチャー会場。プロジェクト貸出可。

②「夕張×〇〇」夕張暮らしを体験しながらにかしらの活動を行いたい人に向けたスペース。ビジネス、ゼミなどにも。

③「アート部屋」夕張に滞在し表現・文化活動を行おうとするアーティストの活動拠点に。1階はホワイトキューブ仕様でミニ展覧会も可能。

④「観光インフォメーション」夕張の観光情報や、清水沢エリアの産業遺産観光の“ゲート”。清水沢プロジェクト事務所。

■施設利用 1日1室3,300円（税込）詳しくはウェブサイトをご覧ください。



保存炭鉱住宅

旧宮コ23棟

宮コ23棟は、1972（昭和47）年に北炭が鉱員向けに建設した住宅（鉱員住宅）で、北炭の撤退後は市営住宅となりました。1棟4戸で「縦割り」と呼ばれる、内部が2階建てになった住宅です。1戸は2LDKで広さは49.7㎡。鉱員住宅には浴室がないため、地区の中心に共同浴場が配置されています。（徒歩1分）



ガイドのご案内

夕張市内の炭鉱遺産や地域事情を対話を通して学んでみませんか

オーダーメイドガイド

個人（1時間・税込）1人 1,650円／2人以上の場合1人あたり 1,100円

団体（10名以上・1時間・税込）1人 550円

学割（1日・税込）1人 1,000円

旧北炭清水沢火力発電所・旧北炭清水沢炭鉱事務所

所有企業の協力により、完全予約制でご案内します。ご予約方法はウェブサイトをご覧ください。

交通アクセス

札幌方面

- ・JR 札幌駅から釧路・帯広方面特急乗車、新夕張駅下車、夕鉄バス乗り換え「宮前町」下車（札幌から約1時間40分）
- ・自家用車で約1時間40分

新千歳空港方面

- ・JR 新千歳空港駅から南千歳駅で乗り換え、釧路・帯広方面特急乗車、新夕張駅下車、夕鉄バス乗り換え「宮前町」下車（空港から約1時間15分）
- ・自家用車で約1時間

長沼町・栗山町方面

- ・夕張市デマンド交通利用（要事前登録・予約）
- 詳しくは夕張市ホームページをご確認ください

清水沢コミュニティゲート 宮前町バス停徒歩3分



一般社団法人 清水沢プロジェクト

<https://www.shimizusawa.com>



炭鉱住宅を活用した交流拠点施設／観光インフォメーション

清水沢コミュニティゲート

SHIMIZUSAWA Community GATE

〒068-0534

北海道夕張市清水沢宮前町39 宮コ23 TEL 0123-57-7463

info@shimizusawa.com

FAX 0123-57-7467

開館日 不定休 | ガイド等で不在がちですので、ご来館前にご連絡ください。

2023.10

まちのたからを糧に、
ともに歩む地域をつくる。

SHIMIZUSAWA
ECOMUSEUM
清水沢エコミュージアム

観光と交流の“ゲート” & みんなのよりどころ

清水沢コミュニティゲート
SHIMIZUSAWA Community GATE

一般社団法人 清水沢プロジェクト

SHIMIZUSAWA
ECOMUSEUM
清水沢エコミュージアム

一般社団法人清水沢プロジェクトの活動

地域の“たからもの”の価値をわかりやすく伝え、
誇りを育てる。
地域に関心を持ってやってくる人々と出会う。
「ともに歩む地域」をつくるしくみ。

夕張市の中心部・清水沢地区には、商業施設や教育機関が多く、これからの夕張の中心部になる地区です。その特徴的なまちの歩みにより、有形無形の炭鉱遺産が多数残っており、「まちじゅうまるごと博物館」といえるほどです。特に北炭清水沢炭鉱の石炭産出ルートは、遺構の数は少ないながらも、空間がまるごと残っており、その場所をズリ山の上から眺めたり、ルート上を歩いたりし、実際の石炭産出のしくみを体感することができます。そしてその景観の中で暮らす人々には、炭鉱時代から脈々と続く文化が根づいています。

夕張が誇る、世界的に見ても価値の高い産業博物館である「夕張市石炭博物館」を補完し、産業遺産や夕張のストーリーを現地でわかりやすく伝えるのが、私たちが提唱する「清水沢エコミュージアム」の役割です。暮らしやコミュニティに触れたい場を通じて地域内外の人々が相互に尊敬し合う関係を構築し、両者がともに歩む地域をつくります。

エコミュージアム？
博物館学で生まれた考え方
- 地域がまるごと「博物館」です。
- 有形・無形の地域の遺産を、人々の記憶の中も含めて「現地で保存」します。
- 地域住民が「学芸員」として、自分たちの遺産を外部の人に誇ります。
この考え方をまちづくりに取り入れています。

会員募集 活動の理念にご賛同いただける方のご入会をお待ちしております

清水沢プロジェクトは、この「清水沢エコミュージアム構想」を元に、地域に残る炭鉱遺産・地域の記憶を糧とし、地域内外の人々が相互に尊敬しあう関係を構築することで、現在と未来の住民、それに関わる人々が誇りを持てる地域をつくることを目標に活動しています。2008年に活動をスタートさせ、2016年に法人化しました。みなさま方からの“共感”が、私たちの活動の原資です。

- 正会員 当法人の目的に賛同し、当法人の運営に携わるために入会する方。社員総会での議決権があります（年会費10,000円）
- 一般会員 当法人の目的に賛同し、当法人の事業を支援するために入会する方。（年会費3,000円）
- 賛助会員 当法人の目的に賛同し、当法人の事業を特に支援するために入会する方。（年会費一口10,000円から）

炭鉱の世界を現地で体感しよう。
清水沢の歴史をたどる、3つのキーワード。



明治時代
鉄道

1897(明治30)年に清水沢駅が開業。1911(明治44)年に大夕張鉄道が開通し石炭輸送の要衝となるとともに、物流・商業機能が集積しました。



大正時代
電力

1926(大正15)年に北海道炭鉱汽船株式会社(北炭)清水沢火力発電所(電力所)が設置されました。昭和に入ると増築し、清水沢ダムを建設し水力発電を実施。100kmを超える送電線網が築かれました。



昭和戦後期
炭鉱

清水沢は最も炭鉱開発が遅く、1947(昭和22)年に北炭清水沢炭鉱の開鉱により炭鉱のまちとなりました。1970(昭和45)年には北炭夕張新炭鉱が開鉱し、北炭の主力は清水沢地区に移りました。

地域の静かな生活を守るために

地域の“たからもの”を多くの人に知ってほしいと思う一方で、私たちには地域の穏やかな暮らしを守る責務があります。清水沢に大勢の観光客の来訪を受け止める容量は、清水沢ズリ山を除いてありません。地域を静かな状態に保つために、大勢の観光客が流入しない工夫と地域住民の暮らしに配慮した行動を呼びかけることを行っています。みなさまのご理解とご協力をお願いします。



鉄1 清水沢駅跡 JR夕張支線跡

1897(明治30)年北海道炭礦鉄道の駅として開業。1911(明治44)年に大夕張鉄道が開通し分岐駅となり、石炭・旅客輸送の要の役割を担った。2004年、交換設備廃止、2015年窓口営業終了。2019年JR夕張支線廃線とともに廃止。駅舎は2022年に解体されたが、ホームとレール、跨線橋はいまだ残り、広大な構内をしのぶ手がかりとなる。

鉄2 三菱大夕張鉄道跡

1911(明治44)年清水沢―二股(後の南大夕張)間開通。1929(昭和4)年炭鉱の北部開発に伴い延伸。1939(昭和14)年地方鉄道に改組。1947(昭和22)年清水沢駅旅客乗り入れ開始。1973(昭和48)年南大夕張―大夕張間廃止、1987(昭和62)年全線廃止。南大夕張駅跡に残された車両は、市民団体が保存活動を担う。

電1 旧北炭清水沢火力発電所 ※見学予約制(夏期のみ)

清水沢火力発電所。1926(大正15)年に完成。石炭需要の急拡大に伴い増改築を繰り返し、1938(昭和13)年には冷却水の安定的取得のために清水沢ダムを建造、水力発電も開始。認可出力49,500kwを誇り、100kmを超える自社送電線網を築いた。1992(平成4)年に火力発電所廃止。水力発電所は1994(平成6)年に北海道企業局に移管された。旧火力建屋は民間企業が使用し、すでに4分の3が解体されたが、現在は解体が停止されている。

電2 清水沢ダム

ダムはかさ上げやゲートの設置・撤去など幾度かの大改修を経て、2016年に水力発電を停止。旧水力発電所の撤去を経て2021年に北海道企業局の新発電所が運転開始した。

石炭の道 事務所～坑口跡～輸車路～選炭場跡～専用線跡～旧清水沢駅

炭1 旧北炭清水沢炭鉱事務所 ※見学予約制

炭2 選炭場跡 北炭清水沢炭鉱は1947(昭和22)年に開鉱し、1952(昭和27)年に遠幌鉱と合併。1980(昭和55)年に終掘により閉山。1951(昭和26)年に建設された事務所・安全灯室は現存し、現在民間企業が使用している。坑口密閉跡、輸車路跡、選炭場跡、専用線跡、駅跡、ズリ山が連続した空間として残っていることから、石炭生産ルート「石炭の道」として、たどることができる。



炭3 北炭清水沢炭鉱ズリ山

選炭時に発生した不要な岩石類(ズリ)を捨てるために積み上げた人工の山。清水沢炭鉱にはズリ山が3つあり高低差60メートルほどの初代が最も大きい。2011年以降有志により階段が整備され、7～8分で山頂まで到達可能。清水沢地区を360°展望できる。

炭4 宮前町浴場

1971(昭和46)年頃に北炭が鉱員住宅地区に整備した浴場で、現在は市営浴場。女湯のほうが大きいのは炭鉱の地区浴場の特徴で、まさに“生きる炭鉱遺産”。一般入浴も可能。営業時間/月・水・金15:30～20:00 入浴料480円。石けん類は持参。

炭5 炭鉱住宅街

1970年代に整備された清水沢炭鉱・夕張新鉱のブロック造炭鉱住宅が立ち並ぶ。現存しているのは宮前町は1棟4戸の縦割・重ねタイプの鉱員住宅、清栄町は1棟2戸もしくは4戸の職員住宅。宮前町と清栄町は浴室がない鉱員住宅地区のため、地区浴場が設置されている。現在はすべて市営住宅で、宮前町は2015年から移転集約が行われ、大部分が解体された。

炭6 北炭夕張新鉱通洞・慰霊碑

北炭夕張新炭鉱(夕張新鉱)は1970(昭和45)年に開発着手、1975(昭和50)年に炭炭開始したもの、1981(昭和56)年10月16日に発生したガス突出事故により、93名が犠牲者となった。通勤用の通洞脇に建立された慰霊碑には、新鉱開発以来の犠牲者の名を刻む。